

今週（2月7日から2月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、引き続き地銀業態の調達が堅調であった。週の後半にかけては一部で調達水準を切り下げる動きが見られたものの、レート水準は先週対比で概ね横ばい圏の推移となった。各業態の調達レートは、都銀・信託業態で▲0.045～▲0.04%、地銀・業態で▲0.04～▲0.001%程度の出合いで推移した。無担保コールO/N加重平均レートは、週を通して▲0.02%台前半での推移となった。今週の日銀当座預金残高は、先週の税揚げにより、週半ばまでは横ばいの526兆円台の推移となった。週後半にかけては国債買入や財政要因により528兆円台まで増加した。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.085～▲0.075%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、5年140～150、10年350～365、20年170～179、30年60～73、40年9～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、1Y・6Mゾーンを中心にやや軟調な展開となった。

8日に実施された短国買入オペは、前回と同額(5,000億円)でオファーされ、やや弱めの結果となった。

9日に実施された6M物の入札は、発行額は500億円減額（34,500億円→34,000億円）される中、甘めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

10日に実施された3M物の入札は、発行額が7,000億円増額（50,000億円→57,000億円）となったこともあり、弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、10日の発行集中日があり、電気・石油・建設・鉄鋼等の複数業態で大型発行があった。週間総額は発行超となっており、市場残高は26兆円台半ばの高水準で推移している。発行レートについては、概ねマイナスで決着している。発行頻度の多い銘柄は浅いマイナス圏で推移する一方、稀少銘柄は3月の新型コロナオペのニーズから、強いビッドが入っている。

10日にはCP等買入オペが事前予定通り5,000億円オファーされた。応札額は6,716億円程度とやや控え目で、平均レートは▲0.014%・按分レートは▲0.030%と按分が流れる結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/7 (月)	27,248.87	0.195	115.23	△ 0.020	△ 0.082	5,266,700
2/8 (火)	27,284.52	0.205	115.29	△ 0.020	△ 0.082	5,261,100
2/9 (水)	27,579.87	0.205	115.53	△ 0.020	△ 0.081	5,267,100
2/10 (木)	27,696.08	0.225	115.59	△ 0.022	△ 0.082	5,286,200
2/11 (金)						

来週（2月14日から2月18日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/14 (月)					
2/15 (火)	10-12月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)	5Y 25,000億円 2/16発行	国有林野借入 958億円 2/25借入		1月の米生産者物価指数 10-12月期のユーロ圏GDP2次速報
2/16 (水)	12月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 12月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				12月の米企業在庫 1月の米小売売上高 1月の米鉱工業生産・設備稼働率 1月の英消費者物価指数
2/17 (木)	12月の機械受注統計(内閣府 8:50) 1月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 35,000億円 2/21発行	20Y 12,000億円 2/18発行	交付税借入 11,000億円 2/28借入	1月の米住宅着工件数
2/18 (金)	1月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 57,000億円 2/21発行			1月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/14 (月)	800	▲ 23,400	▲ 22,600	CP買入 国債補充	▲ 600 400		▲ 200	▲ 22,800	TB3M発行▲57000償還43000 流動性供給▲5000
2/15 (火)	0	102,000	102,000				0	102,000	源泉税揚げ・年金定時払い 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲2600 個人向け3Y・5Y償還1000
2/16 (水)	1,000	6,000	7,000	全店共通 CP買入	▲ 2,800	5,000	2,200	9,200	労働保険料揚げ 5Y発行▲25000
2/17 (木)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
2/18 (金)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	20Y発行▲12000 交付税借入▲11000期日11000
週間合計	800	82,600	83,400	—	▲ 3,000	5,000	2,000	85,400	

2/14は日銀予想、2/15以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終日までには横ばいの水準の出合いが予想される。新しい積み期間の16日以降は基準比率が4.0%に引き下げられた（1月積み期間：5.5%）ことを受け、引き続き大手行の運用ニーズは強いことが予想される。その一方で、地銀業態の調達意欲も継続が予想されることから、概ね横ばい圏の出合いが見込まれる。レポ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、GC O/N物のレートは▲0.080～▲0.070%近辺での推移から始まり、15日に積み期が変わってからは▲0.090～▲0.080%近辺の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、17日に1Y物、18日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、週後半には発行が集中すると見込まれ、動向が注目される。

主要なイベントは、国内では15日に10-12月期のGDP1次速報、18日に1月の全国消費者物価指数、海外では15日に10-12月期のユーロ圏GDP2次速報、16日に1月の英消費者物価指数が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を考慮頂く必要があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。